

令和5年度 広島県スポーツ指導者研修会



令和6年1月13日(土)広島国際会議場を会場に、広島県スポーツ指導者研修会を開催した。山内泰幸氏(元広島東洋カープ)による「野球を通じて学んだこと」と題した講演等を行い、244名の指導者が参加した。

また、令和6年2月12日(月)同会場にて、「チームマネジメント～今治からの挑戦～」と題し、サッカー元日本代表監督で株式会社今治・夢スポーツ代表取締役会長の岡田武史氏による講演等を行い、311名の指導者が参加した。

(※指導者研修会の講演内容をまとめた冊子は別途発行)

「トップアスリート育成事業 2023」

広島県が国スポ総合8位入賞を達成するため、ジュニア選手を対象に、国スポ候補選手としての自覚を養うとともに、スポーツ医・科学等の各種研修を通して競技力の向上を図ることを目指し、トップアスリート育成事業2023を開催しました。

2月3日(土)・4日(日)の1泊2日の日程でグランドプリンスホテル広島を会場に、各競技団体や学校体育団体から推薦された9競技53名のジュニア(中・高校生)選手が参加しました。

(※本協会HP:

https://hiroken-spokyo.jp/junior_training/top_athlete-3/ に掲載)



特別講演「がんばれ！広島のジュニア選手たち」

(国スポを目指して頑張ろう！)

講師：木村文子(広島県スポーツ協会強化委員会委員)

スポーツフェスタを開催

トップアスリートと子どもたちのふれあい交流・スポーツ体験イベントとして、13年ぶりの開催となったスポーツフェスタは、広島県スポーツ協会、広島市スポーツ協会、トップス広島の三者により2月17日に県立総合体育館大アリーナで開催しました。会場の広さやスポーツ体験等の密集を避けるため700家族を募集したところ、1700家族を超えるたくさんの応募があり、厳正な抽選を行い、参加者を限定して実施しました。当日は、約1800人の参加者で大変な賑わいでした。

トップス広島からは8競技、サッカーのサンフレッチェ広島OBでアンバサダーの森崎浩司さん、OBでスクールコーチの駒野友一さん他、バレーボールのJTサンダース広島OB、ホッケーのコカ・コーラレッドスパークスホッケー部の選手、バドミントンの広島ガスバドミントン部の選手・コーチ、バスケットボールの広島ドラゴンフライズのスクールコーチ、陸上の中国電力陸上部の選手、自転車のヴィクトワール広島の選手、ソフトテニスのNTT西日本ブルーグランツの選手・スタッフに参加していただき、ローイングを加えた9競技のスポーツ体験を行いました。

司会の神田康秋さんと田山こずえさんの絶妙な掛け合いで進行していきます。

午後1時からのオープニングでは、小寺洋専務理事（広島県スポーツ協会）が「いろいろなスポーツ体験にチャレンジしてください。そうすることによって、スポーツを大好きになってほしいと思います。」と呼びかけあいさつし、ゲストのアスリートたちが紹介されました。



最初のプログラムは、フロアいっぱいの親子による、親子で行う運動遊び、アクティブ・チャイルド・プログラム(ACP)です。親子でペアになって進めていきますが、トップス広島の選手たちも積極的に参加してくれました。ACP講師の横山さんの指導で、遊び感覚、楽しみながらのゲーム感覚でどんどん身体を動かしていきます。子供たちのはじけるような笑顔とは裏腹に、日ごろの運動不足か辛そうなお父さん、お母さんの姿も見られましたが、皆さんの笑顔が広がっていききました。

午後2時からは小学生お待ちかねのスポーツ体験の前半です。アリーナはバドミントン、ホッケー、バスケットボール、自転車とローイングの4つのゾーンに仕切られ、子供たちは各ゾーンで色々なスポーツにチャレンジしていました。

バドミントンは、投げてもらったシャトルを相手コートに打ち返す体験です。何度か打ち続けていると、だんだんうまく打ち返せるようになっていきます。



ホッケーは室内用のプラスチックボールとスティックを使用し、ドリブルからシュートに持ち込むプレーの体験です。レッドスパークスの選手の指導も次第に熱を帯びていきました。

バスケットボールは、4か所に設置した小学生用のゴールめがけてのフリースローの体験です。慎重にゴールめがけてシュートをしていました。

自転車は、練習用のローラーを使っての走行体験です。



マツダは、スポーツを通じて地域の活性化や発展に貢献するとともに、様々なステークホルダーの皆様へ愛されるチーム作りに取り組んでいます。



ローイングは、広島県ローイング協会の協力で宮島工業高校の生徒も指導に参加し、10台のローイングマシンで疑似レースを行いました。はじめは思うように進まなかったのが、少しの指導でみるみる上達し、それぞれ模擬レースを楽しんでいました。

1時間が経過し、競技を入れ替えたスポーツ体験の後半です。バレーボール、サッカー、ソフトテニス、陸上の4競技になります。

バレーボールは、3か所に分かれてアンダーハンドパス、オーバーハンドパス、アタックの体験です。丁寧に投げてもらったボールを打ち返していました。

サッカーは、並べたカラーコーンをドリブルしてタイムを計測するドリブル体験とボールを蹴ってピンを倒すポウリング体験です。ピンを狙ってシュートしますが、思うようにピンが倒れません。それでも一生懸命シュートしていました。

ソフトテニスは、投げてもらったボールをネット上に設置した輪を狙って相手コートへ打ち返す体験です。中には野球の構えでスタンドに届きそうな大きな打球を飛ばしている小学生もいて、楽しそうでした。

陸上は、ラダーを使っての練習や、仰向け・うつ伏せの状態から、スタートの合図で素早く起き上がり短距離を走る体験をしました。楽しそうに何本も繰り返し走っている小学生もたくさんいました。



体験イベントが終了した後、トップアスリートによるデモンストレーションが始まりました。バドミントンはダブルスの試合です。絶妙なラリーが続き最後は強烈なスマッシュが決まり、大きな拍手に包まれました。自転車はレース用の自転車でこんなこともできるよということで30秒間バランスをとってその場に静止する技を披露した後、ローラーを使用して自転車のペダルをこぎトップスピードまでもっていく大迫力のデモンストレーションでした。



陸上はユニフォーム姿の中国電力の選手と子どもたちの短距離競走です。「走りたいたい人!!」と声をかけるとたくさん手が挙がっていました。ホッケーはプラスチックのボールをスティックを使ってシュートを打ち、その威力に子供たちのため息を誘いました。ソフトテニスはダブルスでラリー、スマッシュ、ボールのスピードに驚いていました。最後は、サッカーで森崎浩司さんと駒野友一さんのリフティングとシュートのデモンストレーションでした。駒野さんのすごいシュートが決まり、子供たちは大はしゃぎ。森崎さんのシュートは狙いどおりスタンドまで届きました。

最後に、神田さんの「今日教えてくれた各チームの選手・スタッフのみなさんにお礼を言いましょう」の呼びかけに、子供たちの「ありがとうございました」の聲が会場に響き渡りフィナーレとなりました。



さあ、ともに 未来へ!





ラグビー部
陸上競技部
女子卓球部

中国電力はシンボルスポーツ部の活動を通して、地域のスポーツ発展に貢献するだけでなく、夢に向かって挑戦し続けることの大切さを子どもたちに知ってほしいと願っています。

中国電力株式会社
<https://www.energia.co.jp/>

「スーパージュニア選手育成プログラム2023」第5回体験プログラム

12月9日(土)の第5回体験プログラムは、午前はボウリング、午後からはテニスを実施しました。

午前中のボウリングは、広島県ボウリング連盟のご協力のもと、広島市中区にある広電ボウルで開催しました。



最初にボウリングの基本的なルールを教えてくださいました。日ごろ家族や友達とゲームを楽しむ時は違って、今回はスポーツとしてのボウリングを体験するため、ルールもしっかり意識しなくてはなりません。

続いて、国体で活躍する講師の方々の模範投球を見せていただいた後、投球フォームの練習です。はじめはボールを持たずに正しいフォームを身に付けます。ボウリングは、リズムが大切。「タン・タ・ターン」というリズムに沿ってやっていきます。フォームがさまになってきたところで、いよいよ自分に合ったボールを持って、練習投球開始です。

実際にレーンにボールを投げてみると、さっきまでできていたフォームが崩れてしまい、思うように投げられない選手たち。ボールを変えたり、講師の方に沢山質問をしたりしながら修正をしていきます。

練習投球が終わると、ゲーム形式で2ゲームのスコアをとりました。

力のあるボールでストライク・スペアを取る選手もいて、相手が良かった時はハイタッチで喜びあう姿も印象的でした。個人競技のイメージが強いボウリングですが、国体など様々な大会で団体戦があるので、こうしてチームを盛り上げる雰囲気は大切です。

今回、ボウリングをしたことがある選手は沢山いましたが、スポーツとしてのボウリングの体験は新鮮だったのではないのでしょうか。奥の深いボウリングに興味を持って、スポーツとして競技として続けていく選手が出てくると嬉しいです。



午後からは、会場を東区スポーツセンターに移動して、広島県テニス協会の方々のご協力のもと、テニスの体験プログラムを開催しました。準備運動が終わったらキャッチボールでボールの動きに慣れていきます。色々な動きをしながら、ボールを触っていきいます。空き缶を持ってボールをキャッチする練習では、ボールの軌道をきちんと予測して動かないと、細い空き缶の中にボールは入ってきません。最初はポロポロとボールをこぼしていた選手たちでしたが、すぐに缶でキャッチができるようになりました。さすがですね。

次に、ラケットを持ってボールを扱う練習に入ります。まずは、一人で垂直にボールをあげて表と裏の面を使う練習をし、そのあと壁を使って打つ練習をしました。次に、8グループに分かれて、ラリーに挑戦です。今回、コートはバドミントンコートを利用しました。打つ力が強すぎても弱すぎてもラリーは続きません。近い距離でボールをコントロールするのに苦戦している様子でした。ラリーは、相手の取りやすいところに打ってあげることが大事です。今までの練習の成果が発揮できたのでしょうか、スムーズにラリーが続くペアが多かったですね。

ボールの扱いに慣れたら、3点先取の試合で、勝ったら上のコート、負けたら下のコートに行く勝ち上がり戦をして、そのあとダブルスの練習をして、体験は終了しました。最後に今回の体験は室内でしたが、選手の中には硬式ボールを打ってみたい、広いコートでやってみたい、と思う選手もいたのではないのでしょうか。体験をきっかけに、新しいスポーツに挑戦してくれたら嬉しいです。

今回の保護者を対象に行ったサポートプログラムは、スポーツ医・科学委員会委員で広島文教大学准教授の中藪宏美先生による「小学生期におけるスポーツと食事について」の講話でした。スポーツのための正しい食生活を身につけることの重要性等についてお話しいただきました。また、現在の食物摂取状況などのアンケート調査を行い、その分析による解析や指導助言・相談などが今回のプログラムで個別に実施されます。スポーツ栄養の考え方による正しい食生活を身につけるためには各家庭の役割が非常に大きいところです。ジュニア選手の育成のために、サポートをよろしく願います。

今回も広島県小学生体育連盟の先生方、T&TWAMサポート株式会社のトレーナーの方など、多くの方々にご支援・ご協力いただきました。ありがとうございます。



「スーパージュニア選手育成プログラム2023」第6回体験プログラム

12月16日(土)の第6回体験プログラムは、午後からスピードスケートを実施しました。

広島市東区のひろしんビッグウェーブで、広島県スケート連盟のご協力のもとに、スピードスケート(ショートトラック)の体験プログラムを開催しました。

スケートリンクに入る前に、スケート競技(スピード、フィギュア、アイスホッケー)の説明を聞いた後、スケート靴、肘・膝のサポーター、ヘルメットを借りて、リンクサイドに集合です。

最初に、フィギュアスケート・スピードスケートのジュニア選手たちに模範滑走をしていただきました。スーパージュニア選手達は、軽やかに滑る選手を間近で見て、圧倒されている様子でした。

いよいよ、スーパージュニア選手たちもリンクへ入ります。

最初は氷上での歩行練習で、壁から手を離してゆっくり歩きながら氷上に慣れていきます。スーパージュニア選手だけにどの選手も壁から手を離して、少しずつ滑れるようになってきました。

次に3グループに分かれて滑走の練習です。ゆっくり両足で前に進めるようになったら、ひょうたん滑走や片足での滑走、止まり方などを教えていただいたあとに、後ろ向きでの滑走にもチャレンジしました。カラーコーンを置いて小さな周回コースを滑走する練習では、最初に比べて転ぶ回数がぐんと減り、上達を感じることができました。上達してきた選手の中には、クロッシングをする様子も見受けられました。



最後は、男女別に、7人から8人一組で一週目のレースです。男子は、各組2着、女子は、3着までが次の決勝に進みます。スタートしたら、下ではなく前を向いて滑れ、とアドバイス。ゴールが近くなると気持ちが焦って「滑る」より「走る」になることや、ゴール直前で転倒する選手がいるのは、毎年恒例の風景です。体験が始まったばかりの時、恐る恐る氷に立っていた姿からは想像できません。参加した選手全員が、コース一周を滑り切りました。次に、予選で勝ち上がった男女別のそれぞれ上位による決勝レースを行いました。決勝に残った選手には広島県スケート連盟から各順位の表彰状が授与されました。この体験がきっかけで、ご家族や友達とスケート場に行く回数が増えることを期待しています。



今回の保護者を対象としたサポートプログラムは、前回実施した食事調査の回答を踏まえた個別懇談でした。担当する6名の先生から、各選手の回答を踏まえた具体的なアドバイスが行われました。ジュニア選手育成の家庭でのサポートに参考となることを期待します。今回も広島県小学生体育連盟の先生方、T&TWAMサポート株式会社のトレーナーの方など、多くの方々にご支援・ご協力いただきました。ありがとうございました。

「スーパージュニア選手育成プログラム2023」ファイナルトライアル

令和6年1月21日(日)に、広島県立総合体育館小アリーナにおいて今年度最後のプログラムとして、体のバランストレーニングと運動適性テストを行いました。

まず午前は、第1回体験プログラムでも実施した「体のバランストレーニング」を行いました。

講師は第1回と同じく、一般財団法人日本コアコンディショニング協会の竹原亮紀マスタートレーナーです。



体の軸・重心を安定させるトレーニングや、効率的な体の動かし方などを教えてもらいながら実践しました。特にスポーツをする上で大切なコア(腹筋・背筋など)を鍛えるトレーニングは、一見激しい動きには見えませんが、全身を使った運動なので選手たちからは「きつい!」と悲鳴があがります。

第1回に行ったトレーニングもあり、選手たちは前回のプログラムの自分の体との変化を実感することができたのではないのでしょうか。

今回も、平均台や跳び箱、マットを使ったトレーニングも行いました。そして、最後は学年男女別対抗で、重いマットを押しリレーで対決しました。競い合う中でも楽しみながら体の切り返し方や効率的な動き方を学ぶことができました。

自分の身体を思うように操る技術(コアの使い方)は、どのスポーツをするにも重要になるので、教わったことを継続して実施してくれると嬉しいです。

今回の保護者を対象に行った最後のサポートプログラムは、スポーツ医・科学委員会副委員長の村上恒二先生による「ジュニア期スポーツ障害と予防」の講話でした。

先生のこれまでの医療活動のご経験を踏まえ、こどもの骨や関節等の特徴からジュニア期に起こりやすい障害の具体的な症例や使い過ぎ症候群についてお話いただきました。また、スポーツ障害の予防や対策についても学び参加した保護者も熱心に聞いていました。



午後は、この育成プログラムの締めくくりとして、5月に行ったトライアルと同じ内容の運動適性テストを行いました。上体起こし、立ち幅跳び、長座体前屈、40m走、ソフトボール投げ、20mシャトルランの6種目を実施し、自分の記録を確認しました。今回の測定結果は、5月のトライアル時と比較できる形で各選手に返却されますので、届いたら自分の記録を確認して成長を感じてみてください。

最後に、全員に修了証とすべてのプログラムに参加した選手に皆勤賞が交付され、スーパージュニア選手育成プログラム2023は完結しました。

今年度は計6回のプログラムを通して9競技を体験することができました。色々な技術を習得しやすい「ゴールデンエイジ」と呼ばれる小学校高学年の時期に、多くのスポーツ仲間に出会うことができたのは、選手の皆さんにとって貴重な経験になったと思います。これからも様々なスポーツ・体育のイベントに積極的に参加して、自分の特性を磨いていかれることを期待します。

また、保護者の皆様には、毎回の引率、サポートプログラムへの出席など、御協力ありがとうございました。スポーツ選手の育成には、家庭でのサポートが欠かせません。このプログラムで得られたことを活かしていただき、子どもたちの成長をしっかりと見守っていただきたいと思います。



最後になりましたが、今年度も広島県小学生体育連盟の先生方、T&TWAMサポート株式会社のトレーナーの方など、多くの方々にご支援・ご協力いただきましたことに深く感謝申し上げます。



未来を、 こうしよう!

私たちに、描いているビジョンがあります。
緑あふれる環境の中で、誰もが笑顔で働き、学び、生活できる未来。
私たち中電工が、持続可能な社会づくりに貢献していきます。
これからは時代のニーズに合わせて進化し続けるから、
みなさまとともに歩んでいきます。

屋内電気工事	空調管工事
情報通信工事	配電線工事
送変電地中線工事	リニューアル工事
エネルギー関連工事	環境関連工事

中電工

CHUDENKO

〒730-0855 広島市中区小網町6番12号
www.chudenko.co.jp



令和5年度

叙勲・褒章・文部科学大臣表彰受章祝賀式

公益財団法人広島県スポーツ協会スポーツ賞表彰式



令和5年12月2日(土)令和5年度叙勲・褒章・文部科学大臣表彰受章祝賀式および(公財)広島県スポーツ協会スポーツ賞表彰式を行いました。

叙勲・褒章・文部科学大臣表彰受章者

叙勲・褒章

- 瑞宝中綬章(教育研究功労)
市川太一 広島県ローイング協会会長
- 瑞宝双光章(学校保健功労)
近藤治康 一般財団法人広島県バレーボール協会顧問
- 瑞宝双光章(郵政事業功労)
相方典之 公益財団法人福山市スポーツ協会常務理事
一般財団法人広島県バスケットボール協会参与
- 旭日双光章(スポーツ振興功労)
吉岡民登 広島県ゴルフ協会名誉会長
- 黄綬褒章(税理士業)
篠原敦子 公益財団法人広島県スポーツ協会特別会員



文部科学大臣表彰

- (生涯スポーツ功労) 重野陽一 公益財団法人広島県スポーツ協会副会長・一般財団法人広島県バレーボール協会会長
山本保義 広島県ボクシング連盟副理事長
原俊三郎 呉市スポーツ協会副会長・呉市スポーツ少年団本部長
- (スポーツ推進委員功労) 中田貢 総合型地域スポーツクラブきて呉んさいクラブ会長・公益社団法人全国スポーツ推進委員連合監事
門前俊幸 府中町体育協会会長・府中町スポーツ推進委員協議会会長

令和5年度公益財団法人広島県スポーツ協会スポーツ賞受賞者

国際大会優秀の部

- 陸上 高山峻野(ゼンリン)
真野友博(九電工)
榎原沙紀(筑波大学)
- 水泳(AS) 竹岡小夏(広島市立五日市観音中学校)
- サッカー 山崎大地(サンフレッチェ広島)
中嶋淑乃(サンフレッチェ広島レジーナ)
上野真実(サンフレッチェ広島レジーナ)
中島洋太郎(広島県立吉田高等学校)
- バレーボール 新井雄大(JTサンダーズ広島)
- ソフトテニス 上松俊貴(NTT西日本)
高橋乃綾(北広島町豊平地域づくりセンター)
広岡宙(NTT西日本)
内本隆文(NTT西日本)
内田理久(NTT西日本)
尾上胡桃(日本桜友会)
- バドミントン 日野石智子
- ウエイトリフティング 佐古浩
- カヌー 岡崎遥海(戸田建設株)
- スキー(スノーボード) 竹内智香(広島ガス)
- アーチェリー 河田悠希(株エディオン)
- 武術太極拳 小櫻果(呉工業高等専門学校)
王俊翔(広島市立五日市観音西小学校)
- パワーリフティング 濱本清司(濱本建設)
亀谷充男(株エイテック)
後藤優誠(広島電鉄株)

功労者の部

- 藤川幸司(水泳)、大野芳治(柔道)、竹谷一夫、種田康三(レスリング)、菅雅則、柳田剛志(ホッケー)、井上和之、西畑公義(軟式野球)、樋内明(バレーボール)、田中敏雄(ソフトテニス)、田坂利明、石村智之(体操)、市川太一、山本雅洋(ローイング)、串畑寛行、堀川英博(スキー)、豊原民紀(アイスホッケー)、森田真吾(空手道)、吉田由香里、藤井正人(なぎなた)、荻野和男(ボウリング)、濱本清司(パワーリフティング)、木谷栄治、奥田祐子、市岡敏生、古道博彦(広島市)、原裕思、田中直樹(呉市)、吉原重臣、寺本吉孝(尾道市)、小林英也(福山市)、高場誠司(三次市)、舛長一次、本橋政幸(東広島市)、水原一男(府中町)、岸豊久(熊野町)、寺廻捷洋(坂町)、浅田和義、熊野孝則(県スポーツ少年団)

全国大会団体優勝の部

- 水泳 広島県選抜
280歳男子4x50mメドレーリレー
- 剣道 広島県選抜(小学生の部)
- サッカー サンフレッチェ広島レジーナ
- ホッケー コカ・コーラレッドスパークス
Hiroshima Buena Vista HC
- バレーボール 深川バレーボールクラブ
- テニス 山陽女学園中等部
- ソフトテニス NTT西日本ソフトテニス部
どんぐり北広島
- 卓球 中国電力株式会社
- アーチェリー 株式会社エディオン
- ボウリング JFE西日本A



功労者 吉田由香里(なぎなた)



国際大会優秀 河田悠希(アーチェリー)



全国大会団体優勝 Hiroshima Buena Vista HC

全国大会個人優勝の部

陸上	櫻原沙紀(筑波大学) 土間董哉(北広島町立千代田中学校) 三好美羽(福山市立神辺西中学校) 網本玲菜(広島県立宮島工業高等学校) 池崎愛里(㈱大創産業) 大歳怜(東広島市立立陽中学校)	卓球	枝廣瞳(中国電力㈱) 高盛大輔(広島県立沼隈特別支援学校(教)) 山本亮(戸田工業㈱) 堀井正雄(広島工業大学(教)) 豊澄成光(広島なぎさ高等学校)
水泳(競泳)	橋原祐美子 大木あい 西本智良子 下家佐江子 石田人志	セーリング	河田悠希(㈱エディオン) 天神聡子(広島県立佐伯高等学校(教)) 西田祥汰(広島市立祇園中学校) 平本陽菜(廿日市市立佐伯中学校)
水泳(AS)	石川真帆(広島市立高須小学校)	アーチェリー	河野葵(大阪体育大学) 佐藤さなみ(東広島市立磯松中学校) 石本美来(JFEスチール) 門田裕美(福山市立山手小学校(教)) 渡邊陽(福山市立東中学校)
水泳(飛込)	古戎侖人(福山市立緑丘小学校)	なぎなた	寺岡虹(府中市立府中学園) 内田煌乃亮(広島市立大塚中学校) 後藤優誠(広島電鉄㈱) 亀谷充男(㈱エイテック)
柔道	米澤直良(崇徳中学校)	ボウリング	
剣道	森田龍介(広島県警察機動隊)	ゴルフ	
テニス	谷本葵(山陽女学園中等部) 柴山那奈(山陽女学園中等部) 渡辺葵依(Scratch) 藤山羽優(やすいそ庭球部)	トライアスロン	
ソフトテニス	上松俊貴(NTT西日本) 広岡宙(NTT西日本) 長江光一(NTT西日本) 高橋乃綾(北広島町豊平地域づくりセンター) 岩倉彩佳((一財)どんぐり財団) 前川愛生(広島翔洋高等学校) 中堀成生(NTT西日本中国) 森本英揮(NTT西日本中国) 佐藤心美(広島翔洋高等学校)	パワーリフティング	

新記録の部

陸上	川本静子 福田博文
アーチェリー	平本陽菜(廿日市市立佐伯中学校)
パワーリフティング	後藤優誠(広島電鉄㈱)

特別国民体育大会優勝及び入賞の部

入賞者一覧は、前号(148号)に掲載

特別国民体育大会入賞競技団体の部

第1位	広島県ソフトテニス連盟
第1位	広島県アーチェリー協会
第7位	公益財団法人広島県サッカー協会
第7位	一般社団法人広島県ホッケー協会
第8位	一般財団法人広島県バレーボール協会
第8位	広島県ソフトボール協会
第8位	広島県ラグビーフットボール協会
第8位	広島県ボウリング連盟

令和5年度優秀指導者

松谷清志	(陸上競技男子監督 広島県立広島皆実高等学校)
平馬慶太	(バレーボール競技成年男子監督 JTサンダース広島)
坂本 亘	(セーリング競技少年監督 広島県立広島国泰寺高等学校)
堀 晃大	(ソフトテニス競技成年男子監督 NTT西日本ソフトテニス部)
渡部剛史	(ソフトテニス競技少年女子監督 広島翔洋高等学校)
佐藤浩之	(馬術競技監督 JB北広島乗馬クラブ)
日野隼一	(ソフトボール競技少年男子監督 広島県立御調高等学校)
三木典子	(アーチェリー競技成年監督 広島県立海田高等学校)



全国大会個人優勝 豊澄成光(セーリング)



新記録 平本陽菜(アーチェリー)



国体優勝及び入賞 堀口理沙(アーチェリー)



国体入賞競技団体 アーチェリー



優秀指導者 日野隼一(ソフトボール少年男子)



受章者を代表して謝辞を述べる西 颯太郎(ソフトボール)

令和5年度日本スポーツ少年団顕彰(伝達)

登録者	新 藤 信 行 (広島市)
	山 本 英 二 (廿日市市)
	熊 野 孝 則 (熊野町)



令和5年度広島県スポーツ少年団顕彰

(1) 単位スポーツ少年団

少林寺拳法広島安佐スポーツ少年団
仁保空手道スポーツ少年団
竹尋アスリートクラブスポーツ少年団
千剣会スポーツ少年団
拳志キッズ(空手道)スポーツ少年団

(2) 登録者

寺 地 まりな (広島市)
今 藤 克 明 (福山市)
高 田 里 志 (〃)
村 岡 展 幸 (安芸高田市)
内 田 和 孝 (府中町)
松 野 一 弘 (熊野町)

県女、山陽、オート、コカ…広島ホッケー115年の系譜

パリ五輪イヤーの2024年1月、女子ホッケー「さくらジャパン」が五輪出場を決めた。予選代表18人のうち8人は広島のコカ・コーラレッドスパークス所属だ。1996年創部のチームはいまや、日本トップの強豪に君臨する。歴史をたどれば、広島は日本有数の「ホッケー王国」なのである。

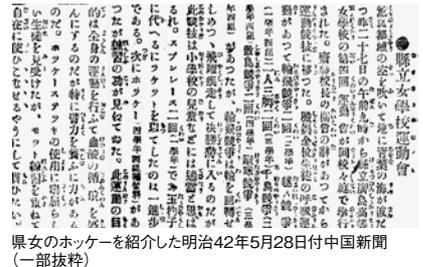
日本ホッケー史は1906(明治39)年、アイルランド人宣教師の指導で慶応義塾への創部が始まりとされる。日本ホッケー協会創設は1923(大正12)年。女子ホッケーは1925(大正14)年、第2回明治神宮競技大会で二階堂女塾(現日本女子体育大)が模範戦を演じたのを創始とする。だが、東京・品川の私立香蘭女学校では1901(明治34)年来日の英国人女教師がホッケーを伝えた記録が残るなど、いまひとつ不鮮明だ。

広島への到来は驚くほど早い。明治42(1909)年5月28日付中国新聞記事「県立女学校運動会」によれば、前日27日の第4回運動会のプログラムに「ホッケー(四学年四組対補習科)」があった。「ホッケーステッキの使用に窮屈らしい生徒も見受けたが、モット練習を重ねて自在に使いこなせるようになってもらいたい」と好意的に紹介した。

県立女学校とは県立広島高等女学校(県女)で、後身は広島皆実高校である。1911年まで運動会でホッケーを実施し、同年の卒業生(6期生)は校友会誌「まことのとく」(14号)に、在学中競技に親しむ同級生の活躍を紹介した。広島ホッケーは115年前、県女が起原のようである。

慶応ホッケー部創設のわずか3年後に、広島の女生徒がスティックを握っていたとはにわかに信じがたい。当時の県女体育教師、原藤蔵は日本体育大学の前身、体操練習所を卒業し広島高等師範(現広島大)の嘱託教員を経て明治41年から県女に勤務した。神奈川県出身だが、慶応ホッケー部との接点は見当たらず、県女への導入の糸口は見いだせなかった。

広島ホッケー史は大正末期から活況を迎える。広島高師付属中(現広島大付属高校)から慶応大へ進んだ多山栄次郎はホッケー部副主将を担い、1923(大正12)年に卒業、帰郷する。家業の呉服卸業を営む傍ら、競技普及に奔走した。山陽中学校(現山陽高校)、県女、高師、陸軍第五師団、呉海兵団などに紹介した。付属、修道、山陽などの中学校から慶大、明大などに進む後進が増えた。多山は卒業後の彼らを中心に社会人の広島クラブをつくり、県協会も組織化した。1923年7月創設の県ホッケー協会は日本協会に4か月先んじた。



県女のホッケーを紹介した明治42年5月28日付中国新聞(一部抜粋)



慶大OBの多山栄次郎
(小林清著「多山栄次郎伝」から)

ホッケーに精魂を傾けた多山だが1935(昭和10)年、38歳で病死した。だが、多山の遺志を継ぐように山陽中はこの年の全国中等大会で初優勝し、戦後も全国高校総体や国体など実に23の全国タイトルを手中にした。

山陽高OBを中心に1971(昭和46)年創設のマツダオート広島は男子実業団の強豪となった。76年に国体、全日本、実業団選手権の三冠を制覇し、実業団選手権は10連覇を果たした。

マツダオート広島廃部の翌1996年に生まれたのがコカ・コーラレッドスパークスである。同年秋の広島国体を照準に創部したが、当時の地元女子ホッケーは「不毛」に近かった。しかし、専用グラウンドの確保や補強活動など企業のバックアップと地道な取り組みが実りを見せた。

2005年に日本リーグ初制覇すると12年には4大タイトルを独占、23年も日本リーグと日本選手権の二冠を得て、特別国体は準優勝。国内トップの風格さえ漂わせる。

明治期、県女の校庭にまかれた一粒の種は多くの五輪代表を生み出した。球技として日本が初めて臨んだ1932年ロス五輪のホッケーには、猪原淳三(高師付中-早大)と永田寛(修道中-明大)の広島勢がいた。以後も男子は5大会に延べ15選手、女子のコカ勢は21年東京五輪までの4大会に16選手を送り込んだ。

次代も育つ。スポーツ少年団「Hiroshima Buena Vista HC」男子は23年夏の全日本中学生選手権に初出場、初優勝。メンバー3人は日本代表として豪州遠征に加わった。創設100周年の古豪山陽高校には女子チームも発足した。多山栄次郎が夢見た「ホッケー王国」復活へ、確かな道筋を描きつつある。(敬称略) 広島県スポーツ協会広報委員長 渡辺勇一(広島経済大学名誉教授)

未来を、ひろげる。

HIROGIN HOLDINGS

広島銀行 | ひろぎん証券 | しまなみ債権回収 | ひろぎんヒューマンリソース | ひろぎんキャピタルパートナーズ
ひろぎんリース | ひろぎんエリアデザイン | ひろぎんクレジットサービス | ひろぎんITソリューションズ

(2023年7月21日現在) Z307